

都市問題等調査特別委員会  
委員会資料

令和 2 年度 福岡空港回転翼機能移設事業に係る  
環境影響評価事後調査報告（第 1 期）について

令和 4 年 1 月 1 7 日

福岡市  
港湾空港局

## 令和2年度 福岡空港回転翼機能移設事業に係る

## 環境影響評価事後調査報告(第1期 中間報告)

大阪航空局

平素より航空行政につきまして、ご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。  
この度、令和2年3月26日に供用を開始いたしました福岡空港回転翼機能施設（奈多ヘリポート）について、福岡市環境影響評価条例に基づき事後調査（第1期）を開始し、1年目の結果をとりまとめましたので、以下の通り中間報告を縦覧いたします。

## ■ 事後調査報告書（第1期 中間報告）の縦覧期間、時間及び場所

- (1) 縦覧期間：令和3年11月24日（水）から令和3年12月24日（金）まで  
ただし、福岡市立東市民センター及び福岡市和白地域交流センターは11月29日を除き、国土交通省の各所及び福岡市東区役所は土曜日、日曜日、祝日を除きます。
- (2) 縦覧時間：9時00分から16時30分まで
- (3) 縦覧場所
  - ・ 国土交通省大阪航空局空港企画調整課
  - ・ 国土交通省大阪航空局福岡空港事務所総務部総務課
  - ・ 福岡市役所情報プラザ
  - ・ 福岡市東区役所企画振興課
  - ・ 福岡市東市民センター（なみきスクエア）
  - ・ 福岡市和白地域交流センター（コミセンわじろ）
  - ・ 福岡市奈多公民館

## ■ ホームページによる公表

報告書は、以下のアドレスにより閲覧することが出来ます。

大阪航空局HP：<https://www.cab.mlit.go.jp/wcab/topix/fukuoka-pj/fukuoka-heliport/>

## ■ 報告(調査)内容

## (1) 航空機騒音、(2) 超低周波音

ヘリポート及びその施設の供用に伴う騒音及び超低周波音の発生状況の変化を検証

## (3) カヤネズミの生息調査

ヘリポート周辺におけるカヤネズミの生息環境保全及び個体数調査を実施し、環境保全措置の効果・影響の有無を検証

## (4) 生態系調査

ヘリポート東側アクセス道路沿いの緑地帯において、哺乳類等の移動状況を調査し、環境変化の影響の有無を検証

## (5) 鳥類の飛翔状況調査

ヘリコプター運航に伴い、ヘリポート内外で飛翔する鳥類の飛翔状況の変化を検証

※(1)(2)：令和4年度までの3年間、(3)～(5)：令和3年度までの2年間、調査実施予定



問合せ先  
国土交通省大阪航空局空港部空港企画調整課  
〒540-8559 大阪府大阪市中央区大手前4-1-76  
Tel:06-6949-6469  
E-mail: cab-osaka-kuuki@mlit.go.jp

# 令和2年度 福岡空港回転翼機能移設事業環境影響評価に係る事後調査報告書（第1期 中間報告）概要版

福岡市環境影響評価条例第29条に基づき奈多ヘリポート供用後に実施する事後調査について、令和2年度の調査結果がまとまったので、概要版を整理した。具体的には、環境影響評価書に定めた5つの項目について、ヘリポート供用に伴う環境影響の評価結果をとりまとめたものである。

## (1) 航空機騒音

調査地点	①海の中道海浜公園、 ②筑紫少女苑、 ③雁の巣地区住宅地、 ④雁の巣病院、⑤奈多小学校、 ⑥和白小学校、⑦和白干潟、 ⑧雁の巣レクリエーションセンター	○ 調査期間中における運航便数												
	調査時期及び期間	夏季 8月 (7日間) 冬季 12月 (7日間)	<table border="1"> <tr> <td>夏季調査</td> <td>冬季調査</td> </tr> <tr> <td>固定翼機アセス時 1616</td> <td>固定翼機アセス時 1572</td> </tr> <tr> <td>+</td> <td>+</td> </tr> <tr> <td>固定翼機事後1期 889</td> <td>固定翼機事後1期 1154</td> </tr> <tr> <td>+</td> <td>+</td> </tr> <tr> <td>ヘリコプター事後1期 98</td> <td>ヘリコプター事後1期 162</td> </tr> </table>	夏季調査	冬季調査	固定翼機アセス時 1616	固定翼機アセス時 1572	+	+	固定翼機事後1期 889	固定翼機事後1期 1154	+	+	ヘリコプター事後1期 98
夏季調査	冬季調査													
固定翼機アセス時 1616	固定翼機アセス時 1572													
+	+													
固定翼機事後1期 889	固定翼機事後1期 1154													
+	+													
ヘリコプター事後1期 98	ヘリコプター事後1期 162													

## 事後調査第1期（令和2年度）の調査結果 評価基準：「航空機騒音に係る環境基準」との比較



※新型コロナウイルス感染症の影響により、運航便数が環境影響評価時よりも減少したが、いずれの地点も航空機騒音の環境基準を満足している。  
▶▶▶令和3年度も同様の調査を継続する。

## (2) 超低周波音 ※耳では聞き取りにくい音。建具のがたつきや心理的・生理的な影響を及ぼす可能性がある。

調査地点	航空機騒音と同地点	調査時期及び期間	夏季 8月 (2日間) 冬季 12月 (2日間)
------	-----------	----------	-----------------------------

### ○夏季調査 超低周波 1/3オクターブバンド音圧レベル調査結果 単位: dB

調査地点名	AP	1/3オクターブバンド中心周波数(Hz)：平坦特性の最大音圧レベル発生時											調査地点名	1/3オクターブバンド中心周波数(Hz)：平坦特性の最大音圧レベル発生時				
		5.0	6.3	8.0	10.0	12.5	16.0	20.0	25.0	31.5	40.0	50.0		63.0	80.0	10.0	20.0	
A: 圧迫感・振動感の目標値	-	115	111	108	105	101	97	93	88	83	78	78	80	84	C: 睡眠影響の目標値	100	95	
B: 建具のがたつきの目標値	-	70	71	72	73	75	77	80	83	87	93	99						
アセス時		78.9	48.5	48.8	51.1	55.9	60.4	63.1	63.7	67.2	69.9	69.2	70.5	72.7	72.6	アセス時		
事後1		86.5	62.9	59.7	59.4	60.5	59.2	60.3	62.5	61.4	60.8	57.1	56.6	58.4	60.1	事後1		
アセス時		84.8	74.1	71.8	72.6	75.0	75.5	73.8	74.8	75.9	69.7	69.4	67.1	69.5	70.8	アセス時		
事後1		88.9	68.1	66.3	58.6	62.3	58.2	61.9	76.8	71.6	65.4	72.4	69.6	67.2	64.6	事後1		
アセス時		84.1	41.5	40.2	43.0	47.5	55.1	57.0	54.6	58.3	61.1	61.7	63.1	77.5	82.9	アセス時		
事後1		87.4	59.5	64.9	56.9	57.5	58.6	60.4	60.2	64.5	66.2	62.3	62.3	59.8	57.5	事後1		
アセス時		81.0	51.6	50.3	57.5	61.7	63.3	67.8	71.6	72.9	72.9	74.4	74.9	63.6	55.4	アセス時		
事後1		91.4	64.4	63.9	62.7	58.6	60.2	59.4	58.4	63.2	60.3	64.9	60.9	59.5	61.0	事後1		
アセス時		84.2	45.5	48.8	53.7	58.7	61.9	68.4	69.5	71.8	75.9	76.4	76.3	76.6	77.5	アセス時		
事後1		86.6	63.5	61.0	58.9	59.3	55.9	58.5	56.9	60.0	63.8	65.7	63.9	65.0	63.2	事後1		
アセス時		84.4	51.6	51.4	54.1	61.5	66.7	67.0	69.8	71.3	74.1	77.4	77.4	78.4	75.3	アセス時		
事後1		79.2	58.2	57.1	55.3	53.7	53.4	51.0	50.6	50.1	52.5	54	49.8	52.4	56.1	事後1		
アセス時		85.8	59.3	52.9	46.7	47.5	51.4	56.6	58.9	60.5	61.7	61.8	64.6	66.3	66.1	アセス時		
事後1		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	事後1		
アセス時		83.3	54.5	53.3	59.8	65.6	67.9	67.9	69.9	72.4	73.8	74.6	74.7	74.9	73.3	アセス時		
事後1		86.4	75.1	72.0	70.1	68.5	66.9	64.6	61.9	59.2	59.6	62.9	59.7	61.4	62.3	事後1		

### ○冬季調査 超低周波 1/3オクターブバンド音圧レベル調査結果 単位: dB

調査地点名	AP	1/3オクターブバンド中心周波数(Hz)：平坦特性の最大音圧レベル発生時											調査地点名	1/3オクターブバンド中心周波数(Hz)：平坦特性の最大音圧レベル発生時				
		5.0	6.3	8.0	10.0	12.5	16.0	20.0	25.0	31.5	40.0	50.0		63.0	80.0	10.0	20.0	
A: 圧迫感・振動感の目標値	-	115	111	108	105	101	97	93	88	83	78	78	80	84	C: 睡眠影響の目標値	100	95	
B: 建具のがたつきの目標値	-	70	71	72	73	75	77	80	83	87	93	99						
アセス時		108.7	93.6	90.6	83.9	82.6	79.5	76.6	74.6	72.7	69.5	67.0	64.7	66.4	69.9	アセス時		
事後1		92.2	49.9	50.9	51.4	66.1	61.4	68.1	83.3	70.9	58.6	57.6	86.8	82.4	86.9	事後1		
アセス時		99.7	80.4	73.9	71.2	69.8	64.4	61.9	60.1	59.0	58.6	57.2	54.8	56.9	58.5	アセス時		
事後1		93.7	45.6	50.3	48.9	50.8	53.3	56.8	76.6	91.4	84.6	70.3	86.8	78.6	79.2	事後1		
アセス時		98.2	69.4	65.5	60.1	59.2	56.3	54.3	52.5	55.1	54.2	50.3	57.1	54.6	アセス時			
事後1		83.7	50.8	49.9	58.5	68.6	61.6	64.6	67.9	64.6	65.8	65.9	64.4	79.6	80.3	事後1		
アセス時		112.9	99.1	98.4	95.2	89.2	90.5	86.6	86.1	83.2	79.7	75.7	73.1	70.8	69.7	アセス時		
事後1		84.2	49.7	49.7	52.8	52.9	54.5	58.4	61.2	57.2	58.3	56.7	70.3	79.4	81.9	事後1		
アセス時		99.2	67.6	61.6	57.7	56.6	56.1	55.3	55.9	56.9	56.1	55.0	56.0	57.0	54.5	アセス時		
事後1		80.8	57.2	52.3	58.9	54.0	57.5	60.1	64.3	63.4	60.5	62.7	70.0	78.8	73.3	事後1		
アセス時		93.9	60.2	55.9	56.0	56.5	57.1	55.4	52.8	52.8	54.5	56.7	55.7	54.9	55.8	アセス時		
事後1		81.8	45.4	44.5	46.0	44.1	46.1	47.6	51.2	53.1	51.7	53.2	66.0	78.7	78.6	事後1		
アセス時		100.2	81.9	80.7	76.4	74.1	70.2	65.7	61.3	60.6	56.4	57.2	58.1	57.1	58.3	アセス時		
事後1		74.7	50.4	54.0	53.1	55.6	54.5	56.2	61.0	63.3	63.2	65.9	66.0	67.0	69.5	事後1		
アセス時		100.6	82.8	83.0	82.3	80.1	79.8	77.1	73.1	71.6	68.3	66.2	65.3	65.2	65.0	アセス時		
事後1		84.9	52.1	52.0	55.2	54.9	59.9	59.7	58.9	67.4	61.8	59.4	60.8	77.5	83.5	事後1		

※表中の「AP」は全周波数を示す「オールパス」を示す。  
※ ハッチング箇所は、低周波音の評価の目安で示した目標値を越えた箇所を示す。  
■ : A圧迫感・振動感の目標値を超えたもの  
■ : B家具のがたつきの目標値を超えたもの  
■ : 上記A,Bのいずれも目標値を超えたもの

※ 低周波音の評価の目安  
A: 心理的影響：圧迫感・振動感の目標値 ※ 出典：「騒音制御Vol.23 No5」(平成11年10月(社)日本騒音制御工学会)  
B: 物理的影響：物理的影響(建具のがたつき)の目標値 ※ 出典：「騒音制御Vol.23 No5」(平成11年10月(社)日本騒音制御工学会)  
C: 生理的影響：睡眠に及ぼす影響の目標値 ※ 出典：「超低音(聞こえない音)」(1994年、中野有朋)

※ APの値の赤文字はヘリコプターが最大であったものを示す。  
※ 表中の「アセス時」は「環境影響評価時」を、「事後1」は「事後調査第1期」を示す

※海の中道海浜公園、筑紫少女苑、雁の巣レクリエーションセンターにおいて超低周波音の目標が一部未達成である。  
▶▶▶令和3年度、居住施設である筑紫少女苑は屋内調査を追加実施予定。  
(その他の地点については、令和3年度も同様の調査を継続する。)

# 令和2年度 福岡空港回転翼機能移設事業環境影響評価に係る事後調査報告書（第1期 中間報告）概要版

## (3) カヤネズミの生息調査

調査地点	※生態系保護の観点から調査位置は非表示。	調査時期及び期間	春季5月、夏季8月、秋季10月（各季：1日間）
------	----------------------	----------	-------------------------

○ 作業・調査項目

カヤネズミの生息・繁殖に適する草地とするため、セイタカアワダチソウ群落から営巣適地であるチガヤ優占の群落になるよう、草刈・除草を実施。

○ 球巣の確認状況

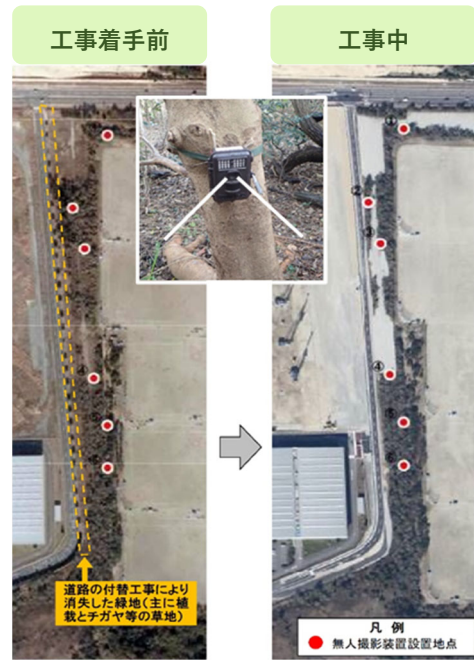
令和元年度 新規:2個、放棄1個確認  
 ▼  
 令和2年度 新規:30個、古巣6個、放棄4個  
 ⇒カヤネズミは個体数を増やし定着しつつある。

※環境保全措置によるチガヤ群落の植生遷移が進み、カヤネズミの個体数も増加して定着しつつある  
 ▶▶▶令和3年度も同様の調査を継続する。  
 環境保全措置（除草・草刈）は、初夏にも実施して効果をさらに上げる。

## (4) 生態系調査

調査地点	ヘリポート東側アクセス道路沿いの緑地帯及びその周辺	調査時期及び期間	春季5月、夏季8月、秋季10月、冬季1月（各季：約30日間）
------	---------------------------	----------	--------------------------------

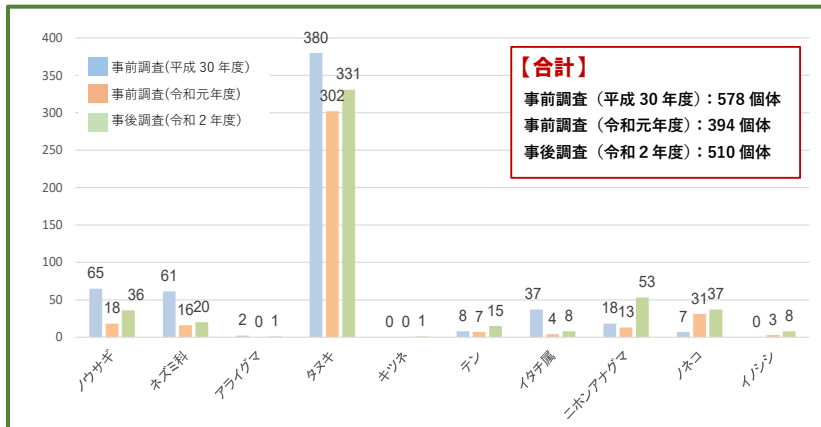
○ 調査項目



道路付替工事に伴い、緑地帯の縮小や生態系の移動経路の分断が懸念されたため、無人撮影装置を用いて緑地帯の移動経路利用状況調査を実施。

○ 確認状況

【確認種】 4目7科10種（ノウサギ、ネズミ科、アライグマ、タヌキ、キツネ、テン、イタチ属、ニホンアナグマ、ノネコ、イノシシ）  
 （参考）[工事前] 3目6科8種 [工事中] 4目6科8種  
 [種数] ①工事前 ▶ ②工事中:変化なし、▶ ③供用時:増加  
 [個体数] ①工事前 ▶ ②工事中:減少傾向、▶ ③供用時:増加傾向(工事前と同程度に回復)



※工事前：事前調査（平成30年度）/ 工事中：事前調査（令和元年度）/ 供用時：事後調査（令和2年度）

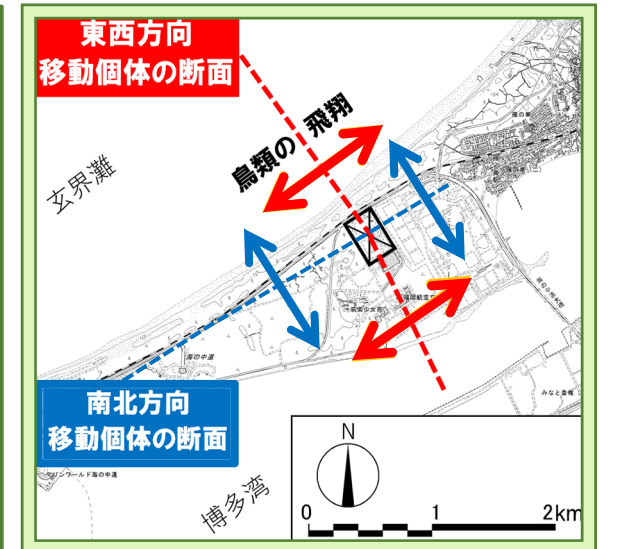
※工事中に減少していたが、供用時から回復傾向にある。▶▶▶令和3年度も同様の調査を継続する。

## (5) 鳥類の飛翔状況調査

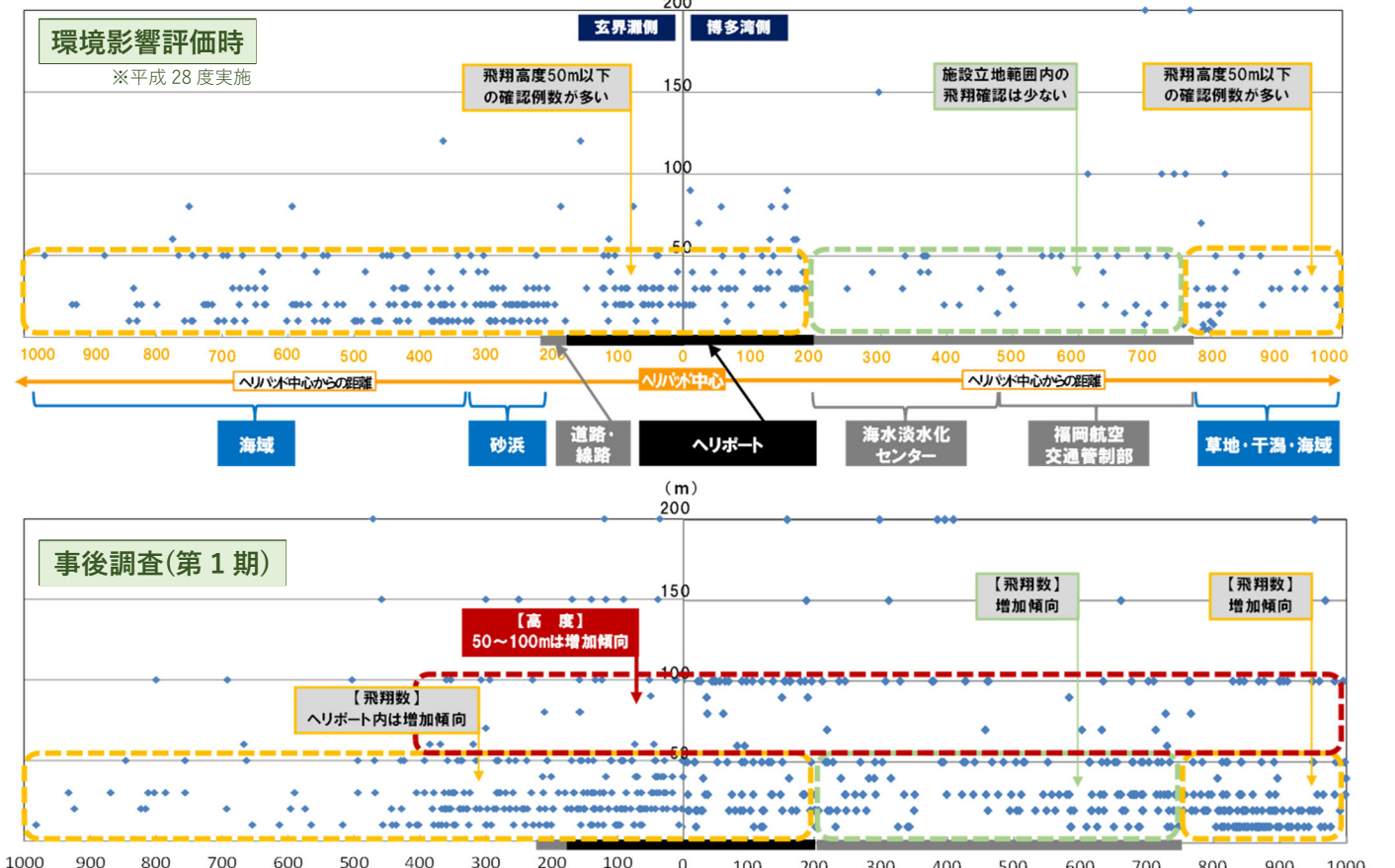
調査地点	ヘリポート周辺 北側・南側・西側の3地点	調査時期及び期間	春季4月、春渡り5月、初夏6月、夏季8月、秋渡り9月、秋季11月、冬季1月（各季：2日間）
------	-------------------------	----------	---

○ 鳥類の飛翔確認状況

東西方向、南北方向ともに  
 ・飛翔経路:大きな変化なし  
 ・飛翔個体数:やや増加傾向、確認種数は88種  
 ※ヘリポート敷地内、観測飛翔数  
 東西方向:環境影響評価時 103例  
 ▶ 事後調査第1期 126例  
 南北方向:環境影響評価時 33例  
 ▶ 事後調査第1期 41例  
 ・飛翔高度:50m以下が多い。50m以上は増加傾向  
 ※50m以上を飛翔する種はトビが最も多く確認された



○ 東西方向断面の鳥類飛翔状況



※ヘリポート供用時から飛翔個体数はやや増加傾向。飛翔高度は50m以上で増加傾向にある  
 ▶▶▶令和3年度も同様の調査を継続する。